□はリンク ※はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名　グループホーム あじさい

日付

評価機関名　特定非営利活動法人　高齢者・障害者生活支援センター

評価調査員　訪問介護員
介護福祉士

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※

１．評価結果の概要

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

○牛窓の田園地帯に根付いた福祉施設と介護支援事業所に併設されたグループホームで2007（2ユニット）年に開設し、母体（社会福祉法人）の福祉施設、介護支援事業で築かった技術、知識を元に質の高いケアが行われています。

○笑顔と自然な触れ合いの中にパーソンセンタードケアを心がけた支援への取り組みが見られました。ホーム長をはじめ全職員の一致した意識レベルの高さと向上心が諸々の記録・記述等からも伺えました。

○パーソンフッドを大切にしたコミュニケーションが図られておりインフォーマルの活用への取り組みも積極的に行われています。

○広大な敷地内は散歩によるリハビリテーション（嗅・視・聴・蝕・バランス感覚の刺激による残存機能の啓発）と外気浴による共同生活でのストレス発散にも繋がっており、環境資源の役割を果たしている様に感じられました。

特に改善の余地があると思われる点

特に改善というのではありませんが、これからも常に向上心に沿った改善を心がけ、豊かな技術と知識でよりよい共生への取り組みを継続される事を期待しております。

２．評価結果（詳細）

Ⅰ　運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	職員は理念の実現に向け日々努力している。 ○ 基本的人権と自己決定を尊重して誠心から健やかで生きがいのある生活を確保します。 ○ 信念をもって磨かれた知識技能者として利用者の立場に立ち、利用者中心の質の高いサービスを提供することで自立した生活を確保します。 ○ 施設は地域住民に開放し共有します。 ○ 利用者の支援は細やかで心が通う意思伝達とチームワークで共生を確保します。		

Ⅱ　生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	○ 家庭的な雰囲気を有すために木造製品にこだわり、できるだけ普通の家庭と違わないよう取り組んでいる。 ○ 利用者個人のなじみの物を持ち込んで個人に合った居室空間作りと小物や食器等使い慣れたもので落ち着いた生活への場作りに努めている。 ○ 居室以外のリビングはソファー、和室にこたつ、ウッドデッキ、ベンチと用途に合わせて居場所の確保ができるようにしている。		

Ⅲ　ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

Ⅲ　ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	○ 個人の生活リズム、プライバシーを尊重し、掃除、洗濯干し、調理、縫い物、庭仕事等個人のできる能力と得意なことに力を発揮できる様に、また、趣味など今まで取り組んでいた事が継続できる支援に取り組んでいる。 ○ プライバシー保護に配慮してトイレ、入浴は1対1で対応している。		

Ⅳ　運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	○ 全体会議、ミーティング、計画担当者、内部研修、法人内委員会、外部研修を 通じ、各種マニュアルの見直し、職員間で情報共有を行う事で意見の統一もなされている。 ○ 毎月の入居者のご様子も個々の生活記録にて家族へ報告できており、常日頃から家族との連絡も密 にされている。 ○ 職員自身も意識レベルが高くサービスの質の向上に向け日々努力されています。		